

第33回

うつのみやこども賞だより

平成28年度 1回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『へなちょこ探偵24じ』

齊藤飛鳥／著（童心社）



～読んだ本の感想より～

- いじめられたり、追い出されたり、万引きにまきこまれたりすることもあったけど、24じのじむ所に行くたびに気持ちがやわらぎました。
- この本を読んで、主人公の鯨彦が相手の話したことに対して、思ったことがかっこがきされている所と、探偵の24じが天然でおもしろいので、読んでいて思わずわらってしまう所がおもしろかったです。
- しゃちひこの気持ちが思いのままに表されていて、おもしろかった。
- ぼくも、24じのように、子どもに希望をあた

えられ、信らいされるような大人になりたい。

- 24じがつくるおやつが食べてみたいです。
- こんな探偵事務所があれば、きっと毎日いっていると思う。

『ときめき団地の夏祭り』 宇佐美牧子／著（くもん出版）

- 「自分も悪かった」と冷せいに考え、発言できた友里はすごいと思うし、そんな人になれたらいいと思う。
- お祭りの楽しさが良く分かる本でした。お祭りに行きたくなりました。
- 最初はうまくいかなかった4人が、夏祭りを成功させて感動しました。
- 協力することはいいなと感じる本でした。
- 勇気を持つことは、大切なことだと思いました。
- ボランティアから始まった物語だが、そこから、夏祭りの楽しさが広がるストーリーがおもしろい。

『弓を引く少年』 大塚菜生／著（国土社）

- 弦が馬だけでなく、新しく弓にも挑戦していく姿がかっこよかった。海王と弦のその後が気になる。
- 馬にのることをやめてしまった弦をはげますハルオジにあこがれました。
- 主人公がどんどん自分の気持ちに気づいていく所が良かったです。
- 馬にのりながら弓を引いているところを、見てみたいと思いました。
- ハルオジの話を聞いた後の弦の心の変化に感動しました。
- 最初ハルオジは、とてもごういんだったけど、最後の方で弦を説くとく出来て良かったなと思いました。

『リトル・ダンサー』 田村理江／著（国土社）

- 早希と現に会って、英太がゆう気を出して、自分の意見を言えるようになってよかった。
- 努力したってむだだと英太は思っていたけど、バレエをやった後、最後はちがうと気づいたので、よかったなあと思いました。
- 英太のバレエへの思いが伝わってきた。最後、現ちゃんに会えてよかった。
- わたしもバレエは女の子だけだと思ったけど、男の子もできるなんてびっくりした。
- 一緒におどりたいと思っていた早希とおどれてよかったと思いました。

平成28年6月5日